

特別支援学校のフットサル普及へ 指導方法や配慮事項学ぶ 寄宿舎指導員対象に研修会



道内特別支援学校の寄宿舎指導員などを対象としたフットサル研修会が十八日、札幌市内の北海道青少年会館コンパスで開かれ

た。主催は一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会。約四十人が参加し、知的障がいのある児童生徒などへのフットサルの指導方法や指導上の配慮などについて学んだ。

今回の研修会もその一環。知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校で、日中や放課後にフットサルを楽しむことができよう、寄宿舎指導員などが、フットサル技術やルール、指導方法、特に自閉症児への指導上の配慮などを学ぶことを目的に開催した。一般社団法人エスポラーダ北海道スポーツクラブ後援。

研修会では、同振興会の小野寺眞悟理事長が開会あいさつ。フットサルを通して、体力だけではなく、精神力も育てることを訴えた。

続いて、北海道エスポラーダOBで社会福祉法人明日佳職員吉田順省氏、同じく社会福祉法人長沼陽風会職員笠間慎也氏がフットサルの概要について、また、一般社団法人北海道フットサル連盟常務理事の荒川浩幸氏がフットサルのルールについて講義を行った。

研修会の後半では、実技講習を行い、参加者はフットサルの実技や審判方法について学んだ。

終了後、参加者からは、「学校としてフットサルを取り入れる良いきっかけと

寄宿舎指導員など約40人が参加し、講義や実技講習に臨んだ

フットサルボールとゴールの寄贈、高専部対象のフットサル全道大会開催、フットサル実践研究校の指定などに取り組んでいる。

継続して、北海道エスポラーダOBで社会福祉法人明日佳職員の吉田順省氏、同じく社会福祉法人長沼陽風会職員の笠間慎也氏がフットサルの概要について、また、一般社団法人北海道フットサル連盟常務理事の荒川浩幸氏がフットサルのルールについて講義を行った。

研修会の後半では、実技講習を行い、参加者はフットサルの実技や審判方法について学んだ。

終了後、参加者からは、「学校としてフットサルを取り入れる良いきっかけと

また、フットサル指導の実践研究校を指定。障がいの程度が重い児童生徒などに対する、効果的で適正な指導内容・方法の工夫・開発に取り組み。その成果は、フットサル研修会で報告するほか、報告書にまとめる。

7月にフットサル大会

小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会は、二十一日に開いた理事会で、二十九年度事業計画を決めた。七月に札幌市内で第一回小野寺眞悟杯道特別支援学校フットサル大会を開くことなどを盛り込んだ。

事業計画では、道内知的障がい特別支援学校に対する支援・普及活動事業として、フットサル用品の寄贈とエスポラーダ北海道選手OBの派遣を行う。

前者は、学校の希望に応じてフットサルボールと室内用簡易ゴールを贈り、フットサル活動の基盤整備を図るもの。対象は小学部・中学部・高等部併置校二十五校、高等部単置校二十六

な。少しでも多くの生徒に興味をもってもらえるよう、研修の成果を還元したい」「いつでも、どこでもできるスポーツなので、

寄宿舎生活の余暇時間を使って、ボールにふれることから始めたい」などの感想が寄せられた。

徒などが行うスティック部活動を支援する。

知的障がい特別支援学校の放課後・日中活動推進事業として、三十年三月十七日にフットサル研修会を開く。